

第2期（令和7年度～令和11年度）

伊敷台校区コミュニティプラン

みんなが主役 みんなで創ろう
明るく住みよいまち 夢の里 伊敷台



伊敷台校区 夢の里まちづくり協議会

所在地 〒890-0007 鹿児島市伊敷台4丁目20番1号
(伊敷台校区公民館 1F)

電話・FAX 099-295-6877

E-mail yumenosatomachidukuri.ishikidai@purple.plala.or.jp

ホームページ <https://yumenosatoisikidai.com>

目 次

1	はじめに	2
2	「伊敷台校区夢の里まちづくり協議会」とは	3
3	5年間の振り返り	4
	（１）運営方針の振り返り	4
	（２）各部会の振り返り	5
	（ア）総務部会	5
	（イ）社会体育部会	7
	（ウ）福祉部会	9
	（エ）青少年育成部会	11
	（オ）社会教育部会	13
	（カ）安心安全部会	15
4	第2期コミュニティプランと6本の柱	17
5	校区の概要	18
6	まちづくりの目標	20
7	各部会の活動方針・主な活動	21
8	具体的な取組	22
9	資料	25
	（１）プラン策定委員	
	（２）プラン策定経過	
	（３）伊敷台校区マップ	

1 はじめに

第1期「伊敷台校区コミュニティプラン」は、伊敷台校区夢の里まちづくり協議会の創設と同時に検討を開始し、令和2年（2020年）に策定され、関係機関に配布されました。プラン策定に当たっては、大規模なアンケート調査を実施して、地域住民の関心の度合いが高い活動について具体的な内容の計画を立てました。

組織編成については「伊敷台校区公民館運営審議会」時の編成を踏襲した形になりましたが、活動内容は大幅に改善され充実したものになりました。

このようにして策定されたプランをもとにその後5年間活動を進めてきました。この5年間取り組んできた結果、地域住民の交流の場が提供され、地域の活性化に一定の効果がありました。また課題としましては広報活動の低迷のためにまちづくり協議会の認知度が不十分であった事があります。そこで、それらの評価と反省を踏まえたうえで、第2期「伊敷台校区コミュニティプラン」（令和7年度～令和11年度）を策定しました。

伊敷台校区夢の里まちづくり協議会

会長 森谷 國男

「コミュニティプラン」とは

「伊敷台校区コミュニティプラン」は、今後5年間の伊敷台校区をより住みやすく、活気あふれる地域へと発展させるための計画書です。伊敷台校区夢の里まちづくり協議会では、令和5年度（2023年）より策定委員会を設置し、これまでの活動の振り返りや人口減少や高齢化といった地域の課題、鹿児島市が実施した統計調査などを参考に、このプランを策定しました。

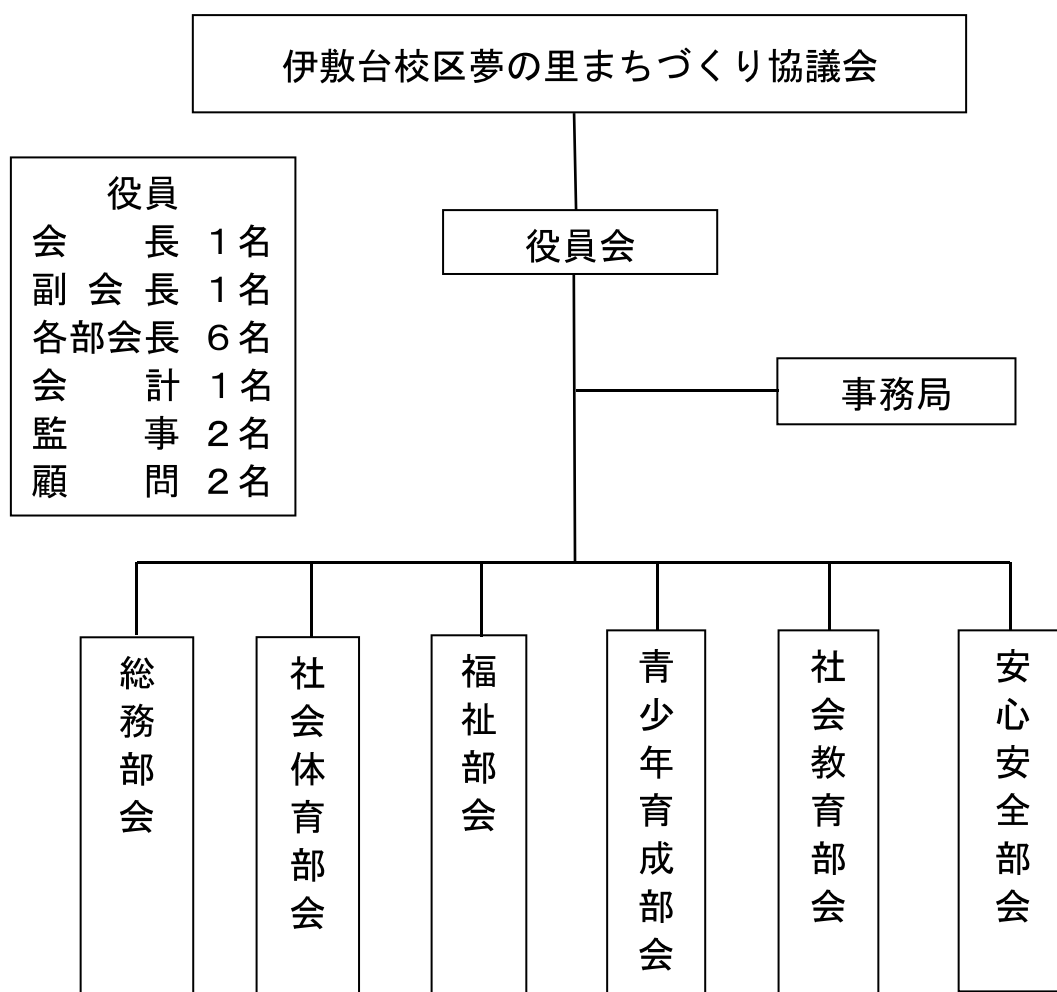
今後、このプランに基づいて、地域住民と協力しながら、魅力ある伊敷台校区の実現を目指していきます。

2 「伊敷台校区夢の里まちづくり協議会」とは

伊敷台校区夢の里まちづくり協議会は、平成30年（2018年）に発足し、伊敷台校区に住む人々が、より住みやすいまちづくりを目指して活動している地域団体です。伊敷台校区の住民や町内会を中心に様々な団体で構成され、お互いに協力して運営されています。

事務局は、伊敷台小学校校区公民館内に置かれています。

組織図



3 5年間の振り返り

(1) 運営方針の振り返り

当初目標と達成度について、四つの運営方針に添って、振り返ってみます。

- (ア) 町内会をはじめとする校区内の各種団体と緊密な連携のもとに、地域住民の声を活動や運営に反映し、地域の課題解決を目指す。

地域住民の声を反映させるために、事業の反省や評価を行い、活動の見直しに活かしてきました。各種団体との連携等を通じて、地域の課題解決に努めてきました。

- (イ) 役員会や部会での共通理解を深め役割分担を図り、活動を活性化する。

まちづくり協議会の組織編成については、運営審議会時代の組織編成を踏襲し、合同部会をさらに充実させ、活動内容を少しずつ改善してきました。

- (ウ) 地域住民の結集に努め、地域主体のまちづくりを進めるために情報発信（広報活動）に積極的に取り組む。

広報活動については、「伊敷台校区夢の里まちづくり協議会事務局だより」を発行・配布してきました。また令和5年度には広報紙を発行しました。

- (エ) 校区公民館を住民交流の場として、ふるさと「夢の里 伊敷台」を目指す。

住民交流の場としての活動を各方面にわたって実施してきましたが、ふるさと「夢の里 伊敷台」を十分にアピールできたかどうかは、明確に把握できていない状況です。参加人数の多いイベントがあった一方、参加人数が期待したほど多くなかったイベントもありました。

また、コロナ禍の影響で、開催を中止したケースも多々ありましたが、ほぼコロナ禍以前の活動に戻すことができました。

(2) 各部会の振り返り

(ア) 総務部会

活動方針

- ・各専門部や関係団体との連絡調整に努め、コミュニティ活動の運営に当たる。
- ・活力あるまちづくりのため、地域課題を的確にとらえ、諸施策の積極的な企画運営や取組を推進する。

番号	事業名	事業内容	事業のねらい	実施評価					継続 改善 検討
				R2	R3	R4	R5	R6	
1	校区内の美化	クリーン伊敷台	美化活動の徹底	A	A	A	A	A	継続
2	広報活動	広報紙の発行	地域住民の意識向上	B	B	B	A	A	継続
3	各部会との連携	合同部会の開催	行事等の精選	A	A	A	A	A	継続
4	町内会の活性化	交流会の開催	地域活性化	B	B	B	B	B	継続

評価は [A] よくできた [B] 概ねできた [C] ややできなかった
[D] できなかった [ー] コロナのために中止



総会



合同部会

現状・課題

- 1 校区内の美化「クリーン伊敷台」については各町内会・自治会の協力で年3回行われている。
- 2 広報については、事務局だよりの発行、ホームページ立ち上げ、適時更新も行っている。
広報紙は令和5年度に第1号を発行した。
- 3 合同部会については、年6回開催して、各部会の連携に努めた。
- 4 町内会を活性化させるために、町内会の情報交換を町内会連絡協議会で行っている。

今後の取組

- 1 町内会の会員数の増加対策を強化する。
- 2 地域の活動やイベント情報を広く周知するため、広報紙の発行回数を増やす。
- 3 デジタルツールを活用し、会議のオンライン化や委員間の連絡に活用する。
- 4 構成団体会員間の交流を深める。
- 5 ホームページに構成団体の最新情報や活動報告を掲載する。
- 6 環境美化の意識を高めるため、「クリーン伊敷台」への参加者を増やし、小中学生の参加者も増やす。



土にふれよう農業体験（さつま芋収穫）

(イ) 社会体育部会

活動方針

- ・スポーツ活動を通して地域住民の親睦と健康的な環境づくりに努める。

番号	事業名	事業内容	事業のねらい	実施評価					継続 改善 検討
				R2	R3	R4	R5	R6	
1	ソフトバレーボール大会	総参加	ふれあい交流親睦	—	—	B	A	A	継続
2	校区走ろう会	総参加	ふれあい交流親睦	B	B	B	A	A	継続
3	ラジオ体操	総参加	ふれあい交流親睦	—	—	—	D	D	検討

評価は [A] よくできた [B] 概ねできた [C] ややできなかった
[D] でなかった [—] コロナのために中止



走ろう会



ソフトバレーボール大会



ソフトバレーボール大会

現状・課題

- 1 ソフトバレーボール大会は令和4年後半より開催できた。
- 2 校区走ろう会は、第3日曜日に開催していたが、令和4年度より第2土曜日に変更したため、参加者が300人程度に増えた。
- 3 走ろう会に校区民の参加が少ない。
- 4 ラジオ体操は、指導者育成の講習会を計画していたが、できなかった。

今後の取組

- 1 親子でできる健康講座や運動教室を開催し、家庭内での健康意識を高める。
- 2 住民が参加しやすいリクリエーションを開催し、住民の健康意識を高める。
- 3 スポーツを通じた交流をさらに推進するため、ニュースポーツなどを紹介する。
- 4 高齢者が手軽にできる運動や、実際に活動している体操教室やスポーツクラブなどを広報紙で紹介する。
- 5 走ろう会や運動教室などの広報に努める。

(ウ) 福祉部会

活動方針

・ 少子高齢化の進展に伴い校区すべての住民が健康で豊かな生活、思いやりのある行動、助け合う地域福祉社会の形成に努める。

番号	事業名	事業内容	事業のねらい	実施評価					継続 改善 検討
				R2	R3	R4	R5	R6	
1	高齢者の組織化の促進	町内会等が高齢者の部会を設ける。	高齢者の活動	B	B	B	B	B	継続
2	「よかよか体操」の普及	町内会等に「よかよか体操」の普及を図る。	健康増進	—	—	—	A	A	継続
3	研修会や講演	健康や介護に関する研修会を企画する。	健康や介護に関する知識	—	—	—	A	A	継続
4	グラウンド・ゴルフ	グラウンド・ゴルフの普及を図る。	健康増進	A	A	A	A	A	継続
5	異世代間の交流	世代間の交流を図る。	異世代交流	B	B	B	B	B	継続
6	同好会の支援	同好会の交流を支援する。	同好会の設立	B	B	B	B	B	継続

評価は [A] よくできた [B] 概ねできた [C] ややできなかった
[D] できなかった [—] コロナのために中止



グラウンド・ゴルフ大会



高齢者講演会と鹿児島よかよか体操

現状・課題

- 1 新型コロナウイルスの感染拡大で、令和２年度から令和４年度は人が集まり密になる事業は中止になった。
- 2 令和５年度から室内での「高齢者健康維持講習会」と「鹿児島よかよか体操」の研修会を合同で実施できた。
- 3 町内会・自治団体で高齢者組織のあるのは３町内会である。
- 4 グラウンド・ゴルフ大会は、屋外で新型コロナ感染予防を行い毎年開催できた。
- 5 異世代間交流は、グラウンド・ゴルフ大会や、土にふれよう農業体験の活動で小中学生との交流を行った
- 6 同好会の支援は、校区文化祭での発表の場を設け、グラウンド・ゴルフ大会やソフトバレーボール大会を開催することにより支援できた。

今後の取組

- 1 高齢者の健康促進や介護予防のための研修会や講習会を開催する。その一つとしていろいろな体操を紹介し、併せて健康推進講話を企画する。
- 2 協議会主催のグラウンド・ゴルフ大会を促進する。加えて初心者講習会を企画し高齢者の参加者拡大を図る。
- 3 異世代間交流と同好会の支援についてはその都度進める。
- 4 校区社会福祉協議会と重なる類似行事は共催としての検討を行い、地域住民にわかりやすい活動にする。

(エ) 青少年育成部会

活動方針

- ・地域住民が協力のもと、家庭・学校・地域が一体となり時代を担う青少年の「こころとからだ」の健全育成に努める。

番号	事業名	事業内容	事業のねらい	実施評価					継続 改善 検討
				R2	R3	R4	R5	R6	
1	立 志 の つ ど い	講演会等	青 少 年 健 全 育 成	—	—	—	A	A	継続
2	愛 の パ ト ロ ール	夜間補導	青少年指導	A	A	A	A	A	継続

評価は [A] よくできた [B] 概ねできた [C] ややできなかった
[D] でなかった [—] コロナのために中止



立志のつどい



愛のパトロール



立志のつどい 講演

現状・課題

- 1 立志のつどいは、令和2年度はコロナ禍で開催できなかったが、地域の方や恩師、子供たちと共同で記念誌を作成し配布した。
令和3・4年度は実施の方向で直前まで開催の準備を進めていたが、コロナのため中止となり、代わりにお祝いの記念品を配布した。
令和5年度は3年ぶりの開催で開校当時の先生を講師として招き、開校当時の学校の様子や子供たち、先生・PTAの思いを話してもらった。
令和6年度は、伊敷台小、中学校の卒業生に青春の思い出を語ってもらった。
- 2 愛のパトロールは公園・店舗等への不審者への夜間の青少年の非行防止に努めた。校区内の民生委員・児童委員・安全モニターの方々と年5～6回、実施した。
- 3 青少年の生活環境として大型店舗、空き家、公園等を調査した。

今後の取組

- 1 立志のつどい
数え年で15歳になることを祝し、将来への決意を明らかにし、大人になる自覚を持つための儀式であり、伊敷台校区の伝統行事であるので今後も継続したい。
- 2 青少年の生活環境の点検調査
青少年の生活環境として大型店舗、空き家、公園等を調査し、併せて不審者、夜間青少年が集まる場所、不審者の出没等情報を共有し、青少年の非行防止に努める。
- 3 文化・スポーツ活動の支援
地域の文化祭やスポーツ活動を支援し、青少年の多様な才能を伸ばす。
伝統文化や芸術を学ぶ機会を提供し、地域への愛着を深める。
- 4 青少年団体の支援
あいご会やスポーツ少年団他関係団体との連携を密にして、親子の交流・コミュニケーションを支援する。
- 5 デジタル化活用推進
部会等では、デジタル化を進め、負担軽減、連絡、情報発信を短時間で実施する。

(才) 社会教育部会

活動方針

- ・校区内内に生涯学習の輪を広げ、地域住民の学習意欲の向上と親睦を深める。
- ・地域住民の芸術・文化活動に対する意識の高揚に努める。

番号	事業名	事業内容	事業の狙い	実施評価					継続 改善 検討
				R2	R3	R4	R5	R6	
1	校区文化祭	舞台・展示発表	住民同士の交流	—	—	B	A	A	継続
2	社会教育学級	成人学級・女性学級	住民同士の交流	—	—	—	—	—	改善
3	門松づくり	校門前の門松づくり	伝統継承	A	A	A	A	A	継続

評価は [A] よくできた [B] 概ねできた [C] ややできなかった
[D] でなかった [—] コロナのために中止



展示発表



秋祭り



門松作り



現状・課題

- 1 校区文化祭は 令和2年度から3年度まではコロナ禍で開催できなかった。
令和4年度に、校区公民館の2階で展示発表を開催した。
令和5年度からは、展示発表と、小学校で秋祭りをを行い、400名近くの
小中学生と保護者や地域住民が参加した。
- 2 成人学級、女性学級はコロナ禍で開催できず、特に高齢の参加者が多いため、
いまだに開催できていない。
- 3 門松作りは伊敷台小学校正門に、毎年作ることができた。

今後の取組

- 1 校区文化祭・秋祭りの更なる充実を図る。
- 2 門松作りは、2学期終業式以後でなく、児童が見ることができる時期に作り、地域の
人と児童の交流を図るきっかけを作りたい。また、門松づくりの意義を伝えたい。
- 3 社会教育学級については、地域住民に役立ち、興味を持ってもらえる講演会等を開催す
る。また、多くの地域住人の参加者を募り、地域住民の学習意欲を高め生涯学習を推進
する。
- 4 社会教育部単独での活動だけでなく他の部との共催できる活動（例えば福祉部、社会
体育部と合同の健康づくり等の研修）を視野に入りたい。



校区文化祭・秋祭り

(カ) 安心安全部会

活動方針

- ・校区内の防犯・交通安全・環境美化に努める。
- ・犯罪の未然防止や危険個所の点検等を通し、住民の安心安全な暮らしを守ることに努める。

番号	事業名	事業内容	事業の狙い	実施評価					継続 改善 検討
				R2	R3	R4	R5	R6	
1	環境点検	校区の店舗内等における児童の状況観察	住民の安心安全と青少年健全育成	A	A	A	A	A	継続
2	危険箇所の点検	校区内の道路、公園等の危険箇所及びスクールゾーンの点検	交通安全の推進、運転者と通行者のマナー育成		A				継続
3	愛のパトロール	児童生徒の行動を把握するとともに不審者の犯罪防止対策	住民の安心安全と青少年健全育成、不審者対策	A	A	A	A	A	継続
4	安心安全ネットワーク会議	まちづくり協議会合同部会員・交番・消防局分遣隊連絡会議	合同部会と交番・消防局分遣隊との情報共有	A	A	A	A	A	継続
5	災害時の防災研修	災害時における避難訓練・救命処置・講話	校区住民の安心安全のための避難訓練・救命・組成訓練	—	—	—	A	A	継続

評価は [A] よくできた [B] 概ねできた [C] ややできなかった
[D] できなかった [—] コロナのために中止

現状・課題

- 1 環境点検は青少年の生活環境点検を、毎年行った。
- 2 危険箇所の点検調査は令和3年度に行い、危険箇所の改善を各組織へ要望として提出し、改善が進められている。
- 3 愛のパトロールは、青少年育成部会と合同で実施しており、夏休み、冬休みの前後、出校日などに合わせて行った。
協議会委員と民生委員・児童委員、さらに安全モニターの方々にも協力をもらい、交流を深めながら公園を中心にパトロールを行っている。また、伊敷交番からパトロールカーでの参加もしてもらっている。
- 4 安心安全ネットワーク会議は、鹿児島西警察署伊敷交番、鹿児島西消防署伊敷分遣隊、伊敷台小学校、伊敷台中学校も参加して 近況の報告や、問題点、注意点など出し合い校区の安心安全について協議している。
- 5 災害時の防災研修はコロナ禍でできなかったが、令和5年度以降は防火講習、防火訓練を行った。

今後の取組

- 1 危険箇所点検調査の回数を増やす。
- 2 緊急時の家族間や身近な人との連絡方法等の啓発活動を行う。



愛のパトロール



防災訓練

4 第2期コミュニティプランと6本の柱

まちづくりプランは、1期5年を計画期間として策定します。わたしたちは伊敷台校区をどんなまちに行きたいか。多様な課題解決（地域資源の活用、暮らしやすい地域づくりなど）に取り組むための計画です。

ここまで取り組んできた活動の結果を踏まえて、これから5年間のまちづくり計画を各部会ごとに策定し、住みやすい活気あふれるまちづくりを目指すものです。

地域住民が主体的に活動に参加できるような仕組みづくり

総務部会

スポーツイベントや運動教室等に通じた、住民の健康増進と親睦

社会体育部

子どもから高齢者まで様々な世代に向けた健康づくり活動や異世代間交流活動

福祉部会

青少年が将来の目標や決意を発表する「立志のつどい」や生活環境の点検調査

青少年育成部会

校区文化祭やイベントを開催し、住民同士の交流を促進

社会教育部会

防犯パトロールや、防災、防犯の講習会を実施し安心安全で暮らしやすい校区の維持

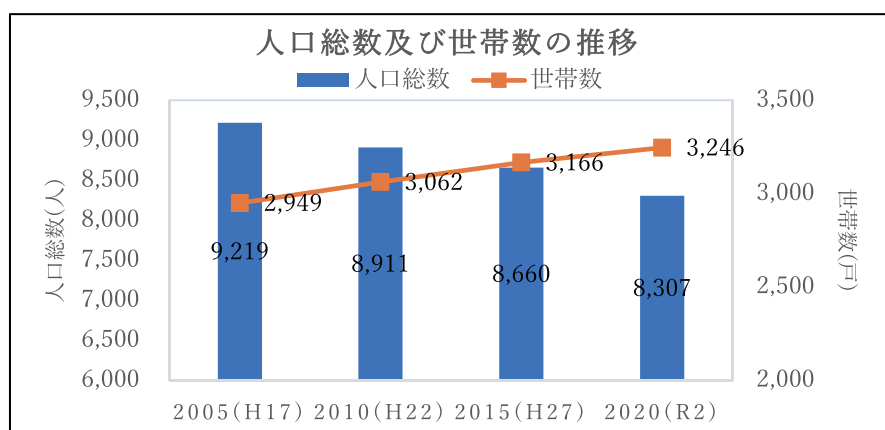
安心安全部会

5 校区の概要

鹿児島市北西部に位置する伊敷台校区は造成から約40年経過しました。団地内には12の星座の名前の公園があり住みよいまちです。地域住民のふれあいは、「校区公民館運営審議会」の時代から盛んで、現在も「伊敷台校区夢の里まちづくり協議会」を中心に、さまざまな活動を続けています。

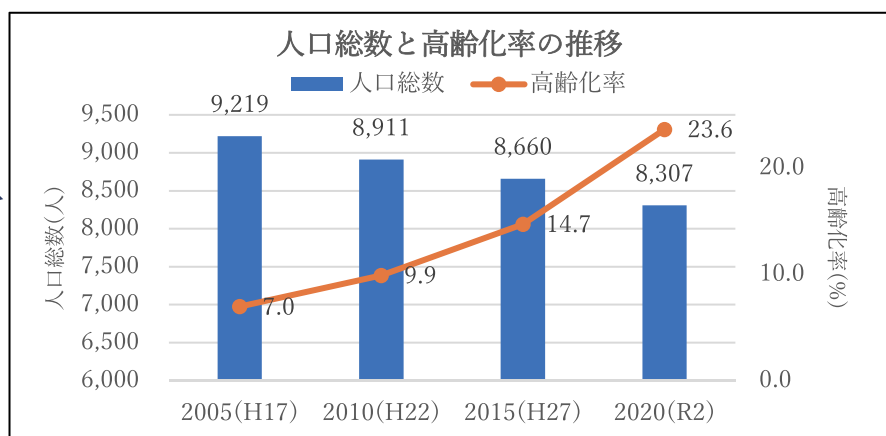
近年、少子高齢化や核家族化が進み、地域の連帯感や相互支援の気持ちも薄れかけていますが、地域住民が一体となり明るく住みよいまちを目指し取り組んでいます。

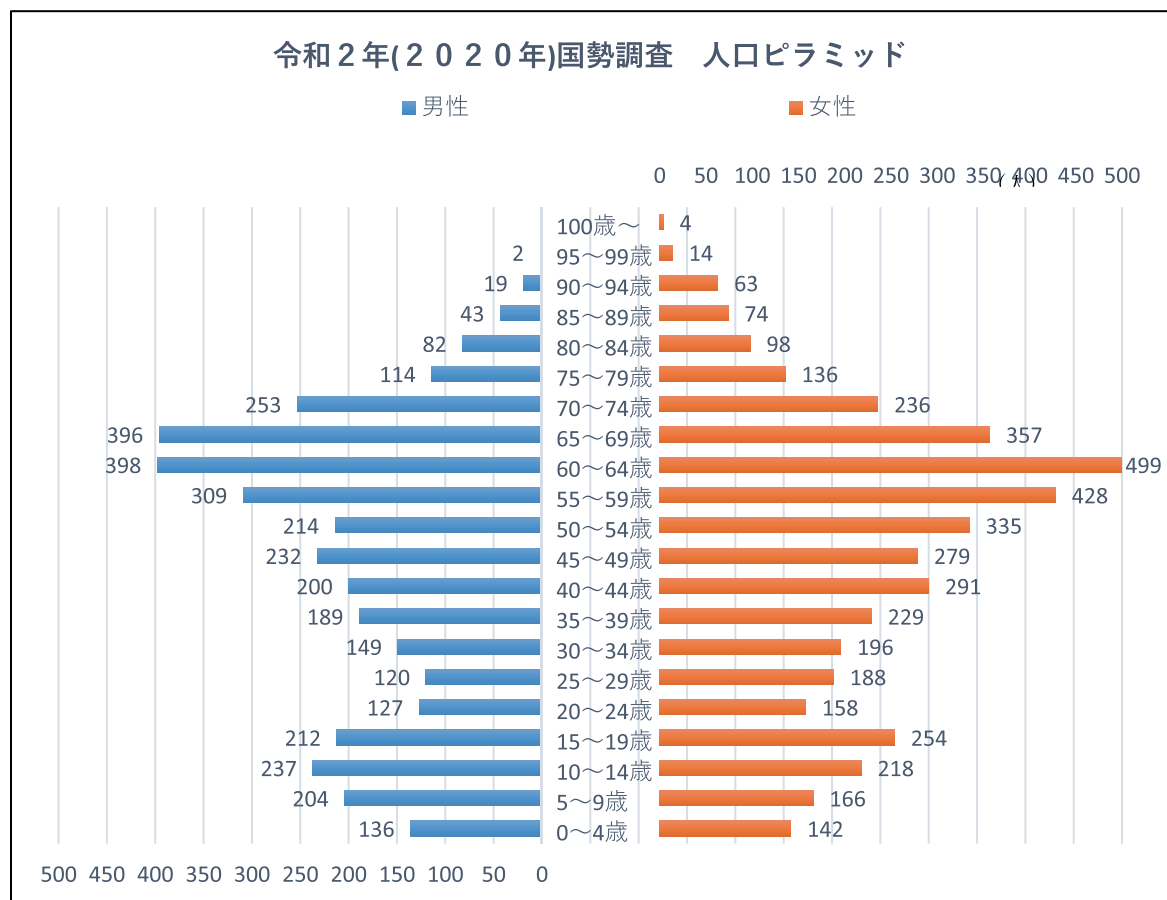
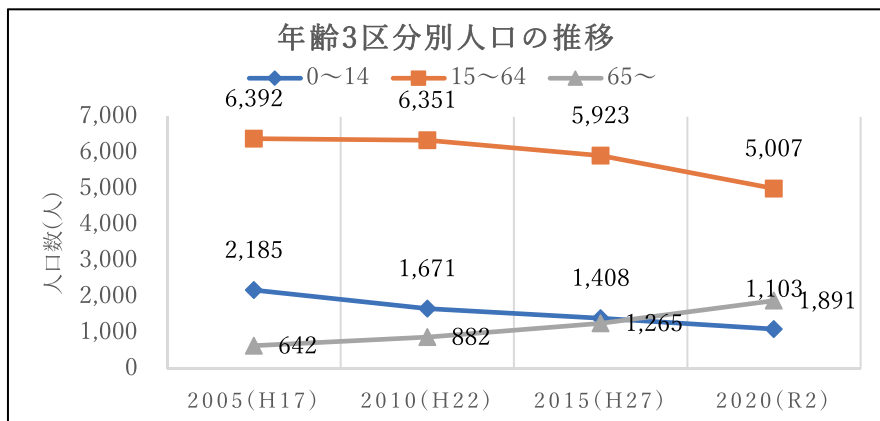
【校区の人口、世帯数、高齢化率、人口ピラミッド】



人口は縮小
世帯数は増加

高齢化が
進んでいる





【構成団体】

伊敷 NT 玉里台町内会、伊敷台西町内会、伊敷台中央町内会、日当平団地親睦会、伊敷台南町内会、伊敷 NT 北町内会、おとめ座町内会、伊敷 NT 東町内会、伊敷 NT ひがし台町内会、グリーンヒルズ町内会、伊敷 NT ノースリバーヒルズ自治会、伊敷台小学校、伊敷台小学校 PTA、伊敷台中学校、伊敷台中学校 PTA、スポーツ推進委員、伊敷台校区スポーツ少年団、地域安全モニター、伊敷台校区あいご会連絡協議会、伊敷台校区社会福祉協議会、伊敷台民生委員児童委員協議会、市高齢者連絡協議会北部地区協議会、伊敷台校区退職校長会 (NT はニュータウン)

6 まちづくりの目標

(1) まちづくりのスローガン

みんなが主役 みんなで創ろう
明るく住みよいまち 夢の里 伊敷台

(2) 目指す将来像

地域住民が、安心安全に暮らせるようなまち、お互いに信頼して助け合うまち、高齢者に優しいまち、子供たちがふるさとと感じてもらえるまちを目指して、元気をを感じる活力ある豊かな人間関係を築くことができる地域コミュニティを目標とします。

(3) 運営方針

- 1 町内会をはじめとする校区内の各種団体と密接に連携し、地域住民の声を活動に反映することで、地域の課題解決を目指す。
- 2 役員会や部会において、共通認識を深め、役割分担を明確にすることで、組織全体の活性化を図る。
- 3 地域住民への情報発信を強化し、地域住民の参加を促すことで、地域主体によるまちづくりを推進する。
- 4 校区公民館を住民交流の拠点とし、地域住民が共に語り合い、共に創り上げる「夢の里 伊敷台」の実現を目指す。

7 各部会の活動方針・主な活動

部会名	活動方針	主な活動
総務部会	・各専門部会や関係団体との連携を密にし、活気あるまちづくりに向けた活動を推進する。 ・地域が抱える課題を的確に把握し、効果的な施策を企画・立案することで、地域全体の活性化に努める。 ・デジタルツールを積極的に活用し、広報活動や会議運営の効率化を図り、より機動的な組織運営を目指す。	広報紙の発行 クリーン伊敷台 会議の運営、記録 ホームページの充実
社会体育部会	スポーツ活動を通じて地域住人の親睦と健康的な環境づくりと健康増進に努める。	ソフトバレー大会 走ろう会
福祉部会	少子高齢化が進む中、地域住民が健康でいきいきと暮らせるよう、世代を超えて互いに助け合い、多様な人々が共生できる持続可能な地域社会を目指す。	異世代間のふれあい交流 ふれあい農業体験 グラウンド・ゴルフ大会 健康に関する研修会
青少年育成部会	地域全体で子どもたちの健やかな成長を支え、心身ともに健全な青少年を育成するため、家庭、学校、地域が連携し、共に取り組む。	立志のつどい 愛のパトロール 青少年の環境点検調査
社会教育部会	・生涯学習の活動を促進し、地域住民の学習意欲を高め、親睦を深める。 ・地域住民の芸術・文化活動への意識向上に努める。	校区文化祭 校区秋祭り 教養講座
安心安全部会	・校区内において、防犯パトロールの実施や危険箇所の点検などを通じて、犯罪を未然に防ぎ、住民が安心して暮らせる安全な環境づくりを目指す。 ・交通安全や環境美化の啓発活動を行い、住みよい地域社会の実現に努める。	愛のパトロール 防災訓練 危険箇所点検・地図作成

8 具体的な取組

(1) 総務部会

番号	事業名	事業内容	事業のねらい	実施計画	
				期間	継、新
1	クリーン伊敷台	校区内の美化	美化活動の徹底	短期	継続
2	広報紙の発行	広報活動	地域住民の意識向上	短期	継続
3	合同部会の開催	各部会との連携	行事等の精選	短期	継続
4	町内会の活性化	交流会の開催	地域の活性化	短期	継続
5	ホームページの活用	構成団体の活動活性化	地域住民の意識向上	短期	新規

(2) 社会体育部

番号	事業名	事業内容	事業のねらい	実施計画	
				期間	継、新
1	ソフトバレーボール大会	ふれあい交流親睦	健康増進	短期	継続
2	校区走ろう会	ふれあい交流親睦	健康増進	短期	継続
3	スポーツ教室	ふれあい交流親睦	健康増進	短期	新規

(3) 福祉部会

番号	事業名	事業内容	事業のねらい	実施計画	
				期間	継、新
1	高齢者の組織化の促進	町内会等が高齢者の部会を作る。	高齢者の活動	短期	継続
2	「健康体操」等の普及	町内会等に「健康体操」等の普及を図る。	健康増進	短期	継続
3	研修会や講演	健康や介護に関する研修会を企画する。	健康や介護に関する知識	短期	継続
4	グラウンド・ゴルフ大会	グラウンド・ゴルフの普及を図る。	健康増進	短期	継続
5	ふれあい農業体験	世代間の交流を図る。	異世代交流	短期	継続

(4) 青少年育成部会

番号	事業名	事業内容	事業のねらい	実施計画	
				期間	継、新
1	立志のつどい	講演会等	青少年健全育成	短期	継続
2	愛のパトロール	夜間補導	青少年指導	短期	継続
3	青少年の生活環境の点検調査	環境調査	青少年健全育成	中期	新規

(5) 社会教育部会

番号	事業名	事業内容	事業のねらい	実施計画	
				期間	継、新
1	校区文化祭	舞台、展示発表	校区住民同士の交流	短期	継続
2	教養講座	生涯学習	校区住民同士の交流・学び	短期	新規
3	門松づくり	校門前の門松づくり	伝統継承 小中学校の支援	短期	継続
4	校区秋祭り	ゲーム、模擬店	校区住民同士の交流	短期	新規
5	同好会の支援	交流の支援	同好会の活性化	中期	継続

(6) 安心安全部会

番号	事業名	事業内容	事業のねらい	実施計画	
				期間	継、新
1	環境点検	校区の店舗内等における児童の状況観察	住民の安心安全と青少年健全育成	短期	継続
2	危険箇所の点検	校区内の道路、公園等の危険箇所及びスクールゾーンの点検	交通安全の推進、運転者と通行者のマナー育成	短期	継続
3	愛のパトロール	児童生徒の行動を把握するとともに不審者の犯罪防止対策	住民の安心安全と青少年健全育成、不審者対策	短期	継続
4	安心安全ネットワーク会議	まちづくり協議会 合同部会員・交番・ 消防局分遣隊連絡 会議	合同部会と交番・消防局分遣隊との情報共有	短期	継続
5	災害時の防災研修	災害時における避難訓練・救命処置・講話	校区住民の安心安全のための避難訓練・救命・蘇生訓練	短期	継続

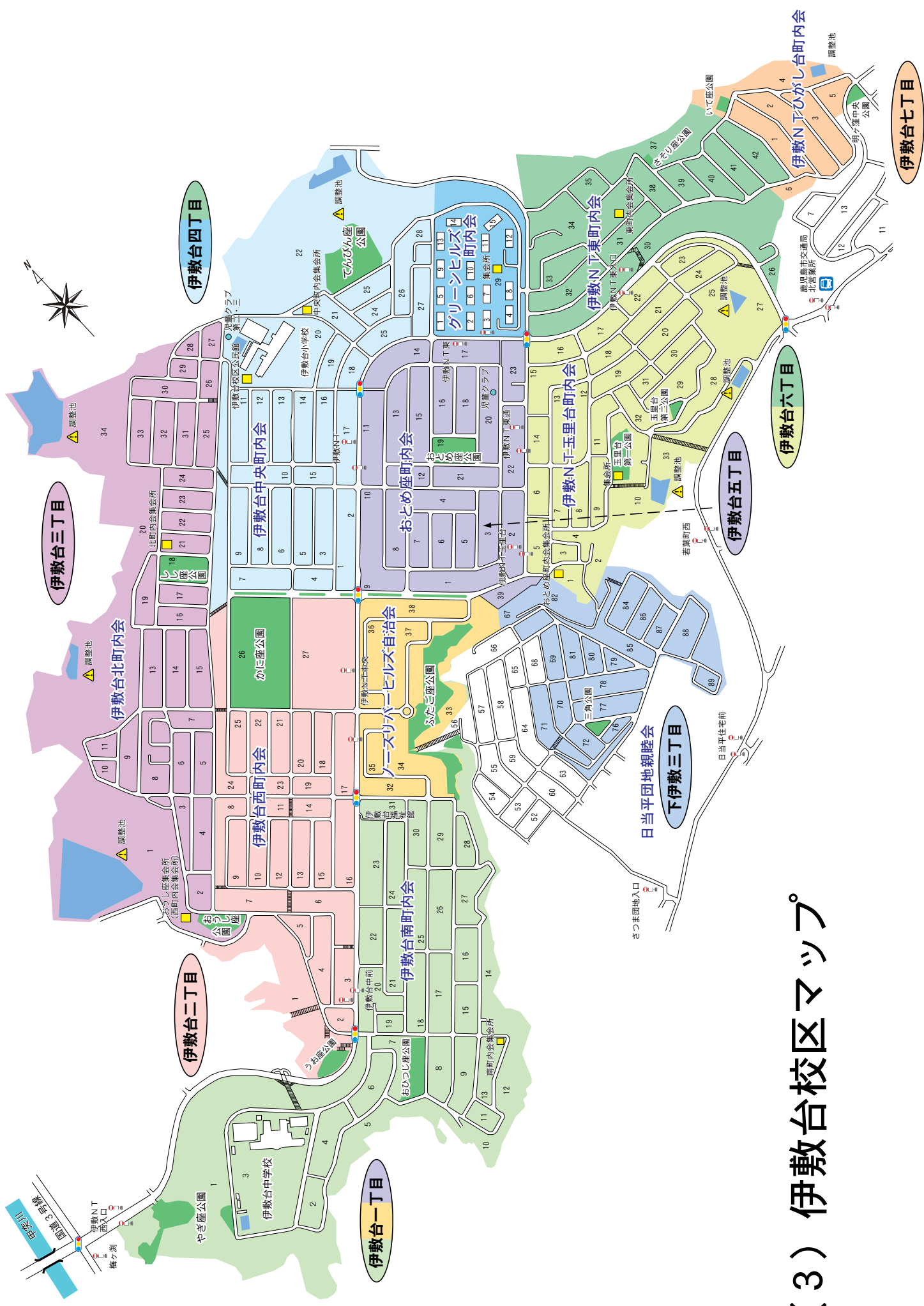
8 資料

(1) 第2期コミュニティプラン策定委員

役職	部会名	氏名	所属団体 役職
会 長		森谷 國男	市高連北部地区協議会 理事
副 会 長		井出 俊郎	スポーツ少年団 会長
部 会 長	総務部会	坂口 良明	日当平団地親睦会 会長
	社会体育部会	新名主 由美	スポーツ推進委員 代表
	福祉部会	彌榮 久志	社会福祉協議会 会長
	青少年育成部会	井出 俊郎	スポーツ少年団 会長
	社会教育部会	三原 美智子	伊敷台中央町内会 会長
	安心安全部会	有村 勲	地域安全モニター 代表

(2) プラン策定経過

年 月	主な活動内容	備考
令和5年 10月19日	まちづくり協議会合同部会	・第2期プラン策定体制と取り組み ・プラン策定員の選任
令和6年 2月22日	まちづくり協議会合同部会	・第2期プランの策定の方針 ・第2期プラン策定スケジュール決定
7月12日	プラン策定委員会	・第1期プランの現状と評価 ・第2期プランの構成について
9月5日	まちづくり協議会合同部会 プラン策定委員会	・第2期プランの構成の協議委員へ説明 ・第1期プランの現状と評価の検討
9月24日	プラン策定委員会	・第1期の現状と課題、今後の取組決定 ・第2期プランの目標、活動方針検討
10月10日	プラン策定委員会	・第2期プランの目標、活動内容決定 及び、プラン全体の構成仮決定
11月14日	プラン策定委員会	・第2期プランの全体の構成、内容検討
12月5日	まちづくり協議会合同部会 プラン策定委員会	・第2期プラン案、合同会議での説明、検討
令和7年 1月16日	プラン策定委員会	・第2期プラン案意見とりまとめ、修正
2月13日	プラン策定委員会	・第2期プラン修正
2月20日	まちづくり協議会合同部会	・第2期プラン決定
3月13日	プラン策定委員会	・第2期プラン印刷校正
5月15日	まちづくり協議会総会	・第2期プランの配布



(3) 伊敷台校区マップ